

宗務所長の見解に対しての私見

この度、現所長の公文書を拝読させていただきました。極めて残念な内容ではありました。所長の職権乱用と越権行為になるかと推量いたします。宗制にあるように「所長は宗務所を代表し、その事務を統括する。」（曹洞宗宗務所規定第 11 条）とだけしか記述はありません。管内寺院の指導、監督の権限はございません。宗門の公職にある以上、あくまでも公正に真摯に対応していただきたいと思います。感情論に始終してしまう言動には一考していただく余地があります。他寺院の問題に深く介入し、混乱をきたす行為には強く抗議します。他寺院の（檀）信徒を扇動して署名活動を促し、曹洞宗宗務庁に直訴に行かせる勧誘は公正さに欠きます。残任期間が 3 カ月で逃げ切ろうということかもしれませんが、その間に一人の人として僧として内省していただければ幸いです。こちら所長の度重なる残忍行為に対しては審議院における調停をお願いせざるを得ません。また、署名者は 420 名を超えているとの見解を示しておられますが仄聞（そくぶん）するところ、ほとんど署名は集まらず、他寺院の檀信徒への協力要請やらニュータウンまで押し掛けての迷走だったとのこと。また宗務庁まで直訴に行かれた信徒の処遇については今後、役員会での審議を経て何らかの対応もあるものをご承知おきいただければ幸甚です。

人間関係はシンプルライフ（付かず離れず）が基本です。『スッタニパータ』第一章「蛇の章」の中の第三節「犀の角」では釈尊は犀の角の如くただ独りで歩めと明言されています。

また『ウダーナ・ヴァルガ』第 25 章「友」編で悪友と付き合ってはいけない。善友と付き合えといわれている。この中でいう悪人とは信心のない人、ケチな人。二枚舌の人、他人の不幸を喜ぶ人であるという。逆に善人とは信心のある、気持ちの良い人、素行の良い人、知識のある人であるという。僧だから、近所だから、旧檀家（信徒）だから、親戚だからという理由だけでお付き合いをする理由はどこにもないのです。むしろ ことある毎に袂を分かって離れていくことに人生の意味はある筈です。（迫害こそ人生脱皮の好機）

最後に寺院社会にご興味をお持ちの方のご意見ご感想をお待ち申し上げます。

平成 30 年 9 月 1 日

見性院住職 橋本英樹